淑　徳　大　学　広　報　誌

Together

SHUKUTOKU
http://www.shukutoku.ac.jp
No. 228 | 2019. 10.1 Autumn

特集2
オープンキャンパスで活躍する学生スタッフ

特集1
淑徳大学フェア2019 in 茨城

Cover Person
堀田 明寛さん
（実践心理学科4年）

学長メッセージ
喫茶去

ともいきのこころ
長谷川良信先生の足跡・2
～写真から広がる長谷川良信先生の世界～

Campus News

知識モリモリ×福祉の仕事
実践するために求められるもの
ソーシャルワーカーを活用しよう

Topics

がんばっている学生、グループ、注目のイベントなどをご紹介。

教育学部　定員増について

教育学部こども教育学科において、より多くの方に学んでいただけるよう、入学定員の増員を行います。文部科学省に収容定員増加の認可申請を行っておりましたが、この度正式に認められましたので、2020年4月入学者から教育学部の入学定員は下記のとおり変更となります。

東日本大震災復興支援プログラム 第9回 学習支援ボランティア

宮城県石巻市立雄勝中学校の生徒たちの学習支援を目的とし、被災の現実と復興の人々の現状にふれて、「利他共生」や「私たちに何ができるか」を体験的に学ぶプログラムです。

今年で第9回目となり、7月31日（水）から8月2日（金）の2泊3日の行程で、総合福祉学部、人文学部の学生7名の学生が参加しました。

（参加学生コメント）

●被災の現実と復興の現状を学び、雄勝中学校のみんなとの学習支援や、雄勝の自然の豊かさ、人情ある温かい人たちとの関わりのすべてが、私にとって最高の思い出となった。2泊3日という短い間だったのにも関わらず、こんなにも濃い体験ができたのだから、これを今後絶対に何かに活かしていきたい。

●学年、学科はバラバラだったけれど協力し合うことができた。改めて人との繋がりというものの大切さを知ることができた。震災の出来事は、風化させてはならない。そのことをこれからの人たちに伝えなくてはならないという使命を感じた。

雄勝中学校での学習支援

2●2●——オリンピック・パラリンピックに向けて

vol.3 学生が車いすフェンシング選手の試合をサポートします！

千葉、千葉第二キャンパスの学生が、東京2020パラリンピックで車いすフェンシング選手のサポート役として参加します。

車いすフェンシングは、昨秋開催のアジアパラ大会にて、銀2個銅7個のメダルを獲得するなど注目を集めており、固定された車いすから至近距離で剣を交えるスリリングな競技です。

選手の身体を車いすに固定する作業を行うなど、競技ボランティアなくして成り立たない競技です。世界から集まった一流選手のすぐそばで競技を体感し、自分がサポートした選手の勝敗を共有する感動を味わうことができます。

学生は、講習を受けて、基礎知識の習得とコミュニケーションの取り方を学びました。来年3月までに予定されている3回の講習では、千葉県内の他大学のボランティアスタッフとの研修やチームビルディングを学ぶ予定です。

車いすフェンシング
場所　幕張メッセ
日程　2020年8月26日（水）～30日（日）

パラリンピックで選手のサポート役を務める学生（第1回目講習後）

vol.4 オランダ女子柔道チーム歓迎セレモニー

8月19日（月）～8月24日（土）まで三芳町のオリンピックパラリンピックのホストタウン事業の一環として、オランダ女子柔道チームのトレーニングキャンプが行われ、8月22日（木）、埼玉キャンパス武道場にて歓迎セレモニーを開催いたしました。

歓迎セレモニーでは、林伊佐雄三芳町町長、本学からは小野寺利幸埼玉キャンパス事務局長、野瀬英豪女子柔道部監督から歓迎の挨拶の後、オランダ女子柔道チームおよび本学学生・教職員との記念撮影と、和やかなムードで進みました。本学では、引き続きオランダ女子柔道チームの活躍を応援いたします。

オランダ女子柔道チームと「みよしー！」の掛け声で撮影しました

COVER PERSON 表紙の人 No. 228

4年間続けたアドミッションスタッフを通して、準備をすることの大切さを学びました。オープンキャンパスは実施される時期によってプログラムの内容や教室が違うため、掲示物を貼る場所や看板の設置場所が異なります。また、来場される高校生の学年も違うため、必要とされている情報も違います。こうした中で、どうしたら楽しんでもらえるか、必要とされている情報をお伝えできるかを事前に深く考えながら準備をすることで、来場者の立場になって考えることができ、状況に応じた臨機応変な対応も行えるようになりました。事前に深く考えながら準備をすることは、これから社会に出て働く上でとても役に立つものだと思っています。

総合福祉学部 実践心理学科 4年
堀田（ほりた） 明寛（あきひろ） さん

教育改革 No.2 社会とのつながりの中で学ぶ

千葉キャンパスでは、「サービスラーニング」と呼ばれる体験型・実践型の教育プログラムに、多くの学生が参加しています。これは地域や社会の課題をテーマに、地域社会、自治体、産業界、民間団体と連携し、協働することを通じて、自己の成長と社会の課題解決を目指すものです。相手や社会との関係性、信頼関係を構築しながら、自分ができることを通じて、他者の幸せに関わる経験を重ねることで、「利他共生」、「感恩奉仕」の建学の精神を自身の中に身に付けていくための取り組みであるとも言えます。

昨年、「ちば産学官連携プラットフォーム」が設立されました。プラットフォームの事業では、千葉市の取り組みである「こども若者市役所」の事業をサービスラーニング活動として、他大学・短大の学生と一緒に展開しています。地域の多世代交流を目的とした「クリスマスカフェ」、夏休みのこどもの居場所を創る「夏休みこども教室」などの活動に、千葉市内の他大学・短大の学生も参加し、交流し合いながら、新たな「共創」の「学び」を生み出し、学生の成長を促進しています。

▲「千葉市こども若者市役所」の取り組みで実施された「クリスマスカフェ」（2018年12月）

一季一言

淑徳大学　学長　磯岡（いそおか） 哲也（てつや）

喫茶去

私たちは、心身の疲労から回復するために休養をとります。休養には、単に休むことだけではなく、精神的価値を高め人間性を育成しながら気力・体力の回復を図る、すなわち自分を養うという側面があると思います。

中国唐代の趙州（じょうしゅう）禅師は、座禅によって悟りを開いた名僧でありました。禅師は「喫茶去（きっさこ）」という言葉で有名な方であります。喫茶はお茶を飲むということ、去は、意味を強める助辞でこれ自体は意味がないとされ、「お茶をおあがりなさい」といった程度の意味になります。

多くの修行僧が悟りを求めて禅師のいる寺院にやってきます。あるとき、禅師が修行僧の一人に「あんたはかつてここに来たことがおありかな」と尋ね、僧が「ありません」と答えると「喫茶去」と言ってお茶を勧めました。もう一人の僧に同じことを尋ねると今度は「あります」と答えましたが、その僧にも禅師は「喫茶去」とお茶を勧めました。

そばにいた院主が「初めて来た者に出す茶はいいとしても、以前来たことがある者にも同じようにお茶を勧めたのはなぜですか?」と尋ねたところ、禅師は突然「院主さん!」と呼び、思わず「はい」と答えた院主に、やはり禅師は「喫茶去」とお茶を勧めたのです。院主は、初めての人にも二度目の人にも同じ「喫茶去」と言ったことに対して、やや批判めいた気持ちがあったのかも知れません。しかし禅師は、「まあお茶でも飲めや」と言われたのです。

これには禅の修行にかかわる深い意味があると考えられます。たとえば、異なった立場の者に対しても同じように接した禅師の修行における平等性、または属性から由来する分別を越えた禅師の無分別の姿勢などに気づくことができるでしょう。しかしここでは、禅師の意図をごく平易に「いろんな思いはあるだろうが、お茶でも飲んで一休みして、まずは心身を安定させるのが大切ではないかな」とそのような意味として捉えたいと思います。

新しくチャレンジする時、失敗して再チャレンジする時、観念的な疑問がわいた時、一服して休養をとり心身の安定を図る。灯火親しむ季節を迎え、自分自身を養うため喫茶去の積極的な意味を考えてみた次第であります。

特集 ❶

淑徳大学フェア2019 in 茨城

7月27日に、茨城県水戸市にあるホテルレイクビュー水戸にて「淑徳大学フェア」が開催され、200名を超える方々にご参加いただきました。

「淑徳大学フェア」は同窓会、協賛会、後援会の各淑徳大学後援組織と大学が一体となって3年ごとに開催される一大イベントで、今回で第7回を迎え、2019年度は学祖と縁の深い茨城県にて開催されました。

当日は台風の影響が心配されましたが、200名を超える多くの方々にご参加いただき、盛大に開催することができました。

フェアの開催にあたり、学長 磯岡哲也より皆様にお礼を述べさせていただきました

第Ⅰ部

●スペシャル座談会

「東京2020オリンピック・パラリンピックで私たちができること」

Ⅰ部・全体会では、「東京2020オリンピック・パラリンピックで私たちができること」と題した、座談会が行われました。

シドニー五輪ソフトボール銀メダリスト・増淵まり子氏、全日本女子柔道ジュニアコーチを務める野瀬英豪氏、リオデジャネイロパラリンピックウィルチェアラグビー銅メダリストの官野一彦氏が登壇し、矢尾板俊平学長特別補佐がコーディネータを務めました。競技者として、指導者として第一線で活躍するパネリストの言葉は、聴衆の心に響き、非常に充実した内容でした。

第Ⅱ部

分科会

●保護者懇談会
●進学相談会

保護者懇談会の様子

進学相談会の様子

Ⅱ部・分科会では、本学教職員による在学生向け保護者懇談会と受験生向け進学相談会が開催され、さまざまな相談が寄せられました。

第Ⅲ部

懇親会

Ⅲ部・懇親会では学祖誕生の地でもあり、本学と連携協定を締結している笠間市から山口伸樹市長が駆けつけてくださり、温かいご挨拶をいただきました。

茨城県支部の皆さまには、茨城の地酒コーナーをご用意いただくなど、ホスピタリティ溢れる進行で会場中、笑顔が溢れていました。

特別イベントとして、つくば市認定地域無形民俗文化財「筑波山ガマの油売り口上」も披露され、会場は大いに盛り上がりました。

最後に、次回の淑徳大学フェア開催予定地である神奈川県支部の方々からご挨拶いただき、2回に分けて記念撮影会が行われました。

● 次回の「淑徳大学フェア」は、2022年に神奈川県で開催予定です。

神奈川県支部の皆さまもご参加いただきました

茨城県支部 自慢の地酒コーナー

第二十代永井兵助 金野龍一名人による「筑波山ガマの油売り口上」の熱演

茨城県支部　**茂木 肇さん**（10期生）

「社会を生き抜く学生の育成に努めること。それが共生という建学の精神につながっていく……」令和元年7月27日（土）、磯岡学長の挨拶が響き、学祖長谷川良信先生生誕地での大学フェアin茨城が開催されました。東京オリ・パラ座談会、分科会を経ての懇親会は長谷川理事長の挨拶、学祖生誕地の笠間市長の挨拶をいただき、山越茨城県支部長の乾杯で開始されました。

「ガマの油売り口上」が会場を沸かせ、地酒コーナーは大好評でした。年月を越えて語り合う友の瞳には、青春の日々が輝いていました。

28日（日）、「学祖誕生地」を巡るバスツアーでは、雨雲が切れ青空が広がり、まさに学祖のお導きでした。「Together with him」それは建学の精神と淑徳大学に集った若者たちの心と、私自身の児童福祉職の原点であります。

多くの大学スタッフに結集いただき「淑徳大学フェア2019in茨城」が盛大に開催できましたことに心から感謝申し上げます。

淑徳大学の学祖・長谷川良信先生 生誕の地
笠間市を巡るバスツアーを開催

翌日は、淑徳大学の学祖・長谷川良信先生 生誕の地、笠間市を巡るバスツアーが開催されました。学祖顕彰碑を訪れた後、笠間稲荷神社や笠間工芸に触れ合うなど笠間市を満喫する内容となりました。

特集2

Welcome to Shukutoku University

オープンキャンパスで活躍する学生スタッフ

オープンキャンパスで思いやりに満ちたキャンパスの雰囲気に触れ、淑徳大学への入学を決めた人も多いでしょう。

今年度も、新しい仲間を迎えるためにアドミッションスタッフが活動しています。どうしたら淑徳の魅力を伝えることができるか、来場者に喜んでもらえるかを考え、他者のために親身になって行動しています。こうしたスタッフたちの姿は来場者の目に眩しく映るはずです。

学祖・長谷川良信先生は淑徳大学の開学にあたり「後に続く者を育てたい。学生諸君、君らは私の同志である」と想いを述べました。アドミッションスタッフは共生きの輪を広げる大切な役割を担っています。

今号の特集では、その活動や想いを紹介します。

千葉第二キャンパス アドスタッフのみなさん

千葉キャンパス アドスタッフのみなさん

給食経営管理実習室にて学生が説明を行っています

実物を使い体験できるのも魅力です

千葉第二 campus

来場者数 合計1,382名
（対象期間：2019年6月23日～2019年8月18日）

アドスタッフ登録数	142名
学　年	1～4年
男女比	男:11　女:131

内訳（名）
看護学科 92
栄養学科 50
1年生 48
2年生 41
3年生 25
4年生 28

千葉第二キャンパスでは各回30名程のアドスタッフが参加しています。淑徳の「顔」として、来場者への声かけや案内など、笑顔で接する事を大切にしており、学生独自企画として学生による学生生活の紹介「淑徳LIFE紹介」などのイベントも実施しています。

国家試験対策や臨地実習などがあり部活やサークルに加入するのが難しい学部ですが、アドスタッフに所属する事により先輩後輩や学科を越えた繋がりを持つ事もできます。

また、将来、看護師や管理栄養士を目指す学生たちにとって、チームで一つの目標に向かって運営していくオープンキャンパスは、自ら率先して動く力や周囲との協調性など、社会人に向けて良い勉強の機会となっています。

千葉 campus

アドスタッフは各回50～60名程度が参加しています。3年の執行部を中心に、各業務には1年間固定のリーダーを配置し、毎週リーダー同士で自主的に打ち合わせを行い、前日準備においては業務に応じて設営やリハーサルも行います。当日は困っている来場者を見かけた場合には笑顔で積極的に声をかけ、来場者との「ふれあい」を大事にしています。毎回、オープンキャンパス終了後には業務改善を考えて職員に発信し次回の運営に活かすなど、アドスタッフでの活動を通して社会人基礎力である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」などを身につけることができます。

学生生活についてプレゼンしました

キャンパスツアーは人気イベントの1つです

大学を紹介するシゴトは、自分を知るというコト

※アドミッションスタッフ（アドスタッフ）
淑徳大学をより多くの方に知っていただくために、
広報活動に協力する学生団体。
各キャンパスで活動する。

来場者数 合計3,559名 ※9/1千葉第二キャンパス合同開催の来場者含む（対象期間：2019年6月23日～2019年9月1日）

アドスタッフ登録数	120名
学　年	1～4年
男女比	男:41　女:79

内訳（名）
社会福祉学科 31
教育福祉学科 39
実践心理学科 25
コミュニティ政策学科 25
1年生 38
2年生 45
3年生 20
4年生 17

STAFF

下級生

看護栄養学部 看護学科 2年
水門 宏衣さん

私は高校2年生の時から淑徳大学のオープンキャンパスに参加していました。その時に、アドスタッフの方々が元気よく挨拶をしてくださり、学生相談の際には沢山のアドバイスをしていただきました。私も先輩方のようになりたいと思い、アドスタッフになることを決めました。

私は受付の担当をすることが多いです。アドスタッフを行うことで、先輩や職員の方々と協力して一つの大きなイベントをやりとげるため、とても達成感があります。またアドスタッフとしての活動を重ねることで、自分に自信がつき、周りに気を配って行動ができるようになりました。アドスタッフ活動のおかげで変わることができました。

上級生

看護栄養学部 栄養学科 4年
宮原 彩夏さん

私が進学先を決断したきっかけはオープンキャンパスでした。そのため、私も大学の魅力を後輩に伝えたいと思い、アドスタッフ活動に参加しました。

活動の中で特に印象に残っていることは「在学生相談」です。授業や学生生活など受験生のさまざまな質問に対し、実際に授業で作ったノート等を見せながら今まで学んできて感じたことをありのままに話しました。相談ブースに来た時は不安そうにしていた受験生が、最後は笑顔で帰っていくことが私も嬉しく、とてもやりがいを感じました。

また、挨拶はもちろん困っている受験生に話しかける場面が多いため、自然と自ら率先して行動する力が身に付きました。この力を、来年社会人になってからも活かしていきたいです。

下級生

総合福祉学部 教育福祉学科
健康教育コース 2年
大峰 紗菜さん

高校生の時に初めてオープンキャンパスに参加した際、笑顔で対応してくださり、困っていた時に即座に対応してくださったアドスタッフの先輩方をみて、入学したら先輩方と一緒にアドスタッフとして活動して、4年間でさまざまなスキルを身につけ成長したいと思ったことがアドスタッフに入ったきっかけです。

この2年間で先輩方の背中を見て学ぶことが沢山ありました。私は人前で話すことが苦手でしたが、さまざまな人との関わりの中で自分の意見をはっきり言えるようになり、自分に自信を持つことができました。これからも活動を通してさまざまなことを経験し、さらに成長していきたいと思います。

上級生

千葉アドスタッフ　統括
総合福祉学部 教育福祉学科
学校教育コース 3年
飯妻 洸樹さん

私がアドスタッフとしてオープンキャンパスに臨む上で一番大切にしていることは、来場者が楽しみながら一つでも多くの情報を持ち帰っていただくということです。その意識を持って取り組んできたことで、相手の立場になって考えるという力だけでなく、アドスタッフ統括としてスタッフ全体の取りまとめや、来場者の前で話す経験を得ることで、広い視野や人前で話す力も養うことができました。

オープンキャンパス前の打ち合わせや準備はとても大変ですが、来場者の笑顔を見ることができた時は、嬉しくなると同時に達成感を得ることができ、アドスタッフの活動はとてもやりがいのある活動だと思っています。

campus 東京

東京キャンパスの目玉イベントは、今年の6、7月に開催した「淑徳カフェ」です。ショートケーキやソフトクリームなどのデザートを来場者に無料で提供しました。中には「しゅくとくま」を模ったパンケーキも！ただ提供するだけでなく、アドスタッフは積極的に受験生に声をかけ、オープンキャンパスの感想や大学生活などについてお話している姿が印象的でした。

アドスタッフを経験するとコミュニケーション能力が身に付きます。特に他人に何かを説明する、紹介する能力です。人文学部を卒業後には、教員や学芸員、アナウンサーなどの進路が考えられます。オープンキャンパスでは、どの業務にも必ず「他者とのコミュニケーション」があり、講義だけでは得ることのできない学びを就職活動にも活かすことができます。

STAFF

下級生

人文学部 歴史学科 2年
岩瀬 翔紀さん

アドスタッフの存在を知ったのは、大学入学後のことでした。実際にはどのような活動をしているのか気になり、自分もやってみたいと思ったのがきっかけです。最初はとても不安で、緊張しっぱなしでした。しかし、多くの方々と接する機会が増えていくと同時に、やりがいや達成感がうまれ、自身の成長にもつながった気がします。司会やキャンパスツアー、ランチ・カフェの給仕など、アドスタッフを通じてさまざまな体験を行うことができ、また、同じメンバーとの協調性、アドスタッフ一丸となってやり遂げるチームワーク力も培うことができました。自身の今後の社会経験にも活かせるように、さらに成長できるように、頑張りたいと思います。

上級生

人文学部 表現学科 3年
島津 夏波子さん

引っ込み思案な性格を直そうと、1年生からアドスタッフになりました。主に食堂でランチ・デザート準備を担当しています。

食事の用意でお待たせしている間、来場者をなるべく退屈させないように明るく話しかけ、気持ちの良いランチタイムになればと心がけています。

初めのうちは声をかけられるのもビクビクしていましたが、3年になった今ではすっかり慣れて、アドスタッフの仕事以外でも人と話すことが気楽にできるようになりました。アドスタッフ活動で培った積極性やトーク力はサークルでも役立っており、現在は、地域FM局が放送するラジオ番組内で、メインパーソナリティーを勤めさせていただいております。大変なときもありますが、それ以上に自分が成長できる場だと思います。

来場者数 合計1,490名
（対象期間：2019年4月21日～2019年8月25日）

アドスタッフ登録数	88名
学　年	1～4年
男女比	男:39　女:49

内訳（名）
歴史学科－46
表現学科－42

1年生	47
2年生	22
3年生	14
4年生	5

初開催の「淑徳カフェ」は大盛況でした

受付では、会場のご案内やオリジナルグッズの配布も行っています

ランチ体験会では、来場者に笑顔でお声かけ

東京キャンパス アドスタッフのみなさん

campus 埼玉

オープンキャンパス当日だけがアドスタッフの活動の場ではありません。イベントの企画、事前の会場設営、各種リハーサル、キャンパスツアー練習…もちろん、後片付けも全てアドスタッフが担います。見えないところでもたくさんの努力を重ねているアドスタッフだからこそ、卒業後にも活躍できる力を身につけています。それは「先生」として人前で話す力であったり、同僚との協調性を重んじる力であったり、臨機応変な判断力であったりなど、さまざまです。

アドスタッフのなかには「自分が高校生のときに対応してくれた先輩アドスタッフに憧れて入ることを決めました」というスタッフもいます。その言葉に、先輩スタッフたちもさらに活動意欲を高めています。

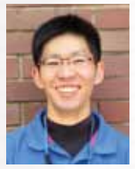
STAFF

上級生

埼玉アドスタッフ　副統括
教育学部
こども教育学科
初等教育コース 3年
岩崎 愛美さん

私は人前に立ち何かをすることが苦手でした。そんな自分を変えたいと思いアドスタッフに入りました。進路を迷っている高校生に自分の言動で少しでも進路を決める手助けができればいいなと思い活動しています。アドスタッフはコミュニケーション能力や責任感、協調性や判断力などを身につけることができ、自分を成長させることができる場です。今は副統括として統括やスタッフと協力しながら、よりよい団体になるよう努めています。

上級生



埼玉アドスタッフ　統括
経営学部
観光経営学科 3年
飯塚 晃介さん

これまでアドスタッフとしての活動を3年間行い、協調性が最も身についたと思っています。このことで、普段の大学生活や周囲との関わり方にも変化が生まれ、人としての成長に繋げることができました。

また、今年は統括をやらせていただき、全員が良い雰囲気の中で活動できる団体を作れるよう心がけています。アドスタッフとして活動することによって、大学生活で頑張る事が1つ増え、充実した大学生活を送ることができています。

下級生

教育学部
こども教育学科
幼児教育コース 2年
嶋田 弥生さん

私は、人前で緊張することや、自分の意見を言えずに周りに合わせてしまうことを直したいと思い、アドスタッフに入りました。活動の中で、1年生の頃は人前でとても緊張していましたが、徐々に緊張せずに冷静に話せるようになりました。また、意見を自分の言葉で伝えられるようになり、直したい所を少し克服することができました。来場者の為に1日のスケジュールの把握など、準備の大切さや視野を広く行動することも日々学んでいます。

アドスタッフも積極的に体験コーナーへ参加します

高校生が話しやすい環境づくりを意識しています

来場者数 合計2,291名
（対象期間：2019年5月26日～2019年8月25日）

アドスタッフ登録数	95名
学　年	1～4年
男女比	男:36　女:59

内訳（名）
経営学科 ―― 9
観光経営学科 ―― 37
こども教育学科 ―― 49

1年生	38
2年生	23
3年生	22
4年生	12

埼玉キャンパス アドスタッフのみなさん

淑徳人。No. 228

GOMITA Akari

五味田 明里さん

小山市教育委員会　生涯学習課 青少年係　勤務

小山市の教育委員会で市内の子どもたちのサポートを行う五味田さん。放課後子ども教室では地域のボランティアの方と一緒に、小学生のお世話もしています。
大学時代はボランティアで子どもに触れたり、卒論も「子ども」をテーマに選ぶなど、気がつけば今の仕事に繋がる事をしていました。そんな五味田さんに、これまでの軌跡を振り返っていただきました。

2018年3月、人文学部歴史学科卒業（1期生）。在学中に教員免許状と学芸員資格を取得。小山市役所に入庁後、教育委員会に出向。小山市に4箇所ある放課後子ども教室の運営や、青少年が非行や犯罪に遭わないように見回りをする指導員の事務局などを務める。

放課後子ども教室で、たくさんの子どもを笑顔にしたい

入職二年目にして多くの業務を担う五味田さん。中でも大きな仕事が「放課後子ども教室」の運営です。ボランティアの方々の年齢が高いこともあり、ひときわ若い五味田さんは子どもたちの人気者。中にはふざけて飛び付いてくる子もいるそうです。

もともと中学時代「こんな先生になりたい！」という熱い先生に出会い教員を志しました。歴史が好きだったことから、ちょうど一期生を募集していた淑徳大学の歴史学科に進みましたが、そこでも教員を目指し、学芸員の資格も取得します。

「学科では教職サークル"師道塾"に参加しました。自分で教材を作って模擬授業を行い、先生を交えて批評をしたり、学芸員資格の講義でも先生の手配で現役の学芸員の方に梱包や掛け軸の巻き方を教わるなど、キメ細かな経験が出来たことは大きな財産です」。

さらには宮城県石巻市の中学校で行う学習支援ボランティアにも参加。「先生に誘われ、参加してみました。復興が進んでいないことに驚きました。瓦礫やプレハブも残っていて、自分で足を運び見ることで多くのことを感じました。ボランティアでは震災の影響もあってか、子どもたちが自分を表現するのを抑えているのが心に残りました」。

そんな五味田さんの卒論のテーマは「捨子と間引きに見る近世村社会」。やはり子どもに関することでした。なぜ捨子や間引きをする必要があったのか？背景の思想や胎児に関する考え方を研究しました。

「今でも虐待や中絶はなくならないし、時代によってそれがどう違うのか調べたくなったんです。教職を目指したことも含め、深いところで子どもに関心があったのかもしれません」。

教員の夢は叶いませんでしたが、お世話になったゼミの先生に相談し、公務員の道を目指すことに。

「先生には、作文や面接、集団討論の対策で、模擬面接や添削をしていただきました。時には不安になりましたが「これだけやったんだから大丈夫だよ！」と励ましていただき、背中を押されました。他の先生からもメイクアップのアドバイスをいただいたり、淑徳大学では先生との距離の近さを感じました」。

入庁した小山市役所では「学芸員資格があるので文化財関係の仕事をしたいと思っていたところ、文化財係のあった生涯学習課に希望通りに配属されました」。さらに思いがけず、子どもにも関わることになりました。

学生時代については「今やっていることに意味があるのか疑問に思っても、取り組み方や考え方を知るには、何でもやってみることが大事です。考えすぎず楽しんでやれば、後になって良かったと思う時がきっと来ます」と当時を振り返り、後輩に熱いメッセージを残してくれました。

今も「子どもたちが学年を超えて遊んだり、高学年の子がルールを決めて低学年の子の面倒を見たりするよう働きかけていきたいです」と、目の前の仕事にまっすぐ取り組んでいます。

Photo × Photo

【学習支援ボランティア】
学習支援として参加し、人の心に寄り添う大切さを学んだと思う時間でした。私たちとのふれあいの中で笑顔を見せてくれたことが嬉しかったです。また、このボランティアに参加し、実際のものを見ることが必要だと考えるようになりました。

【田中ゼミ集合写真】

【歴史学科での学び】
2年生のとき、レポートを書くために富岡製糸場へ。レポートを書く際はなるべく実際に見たり体験したりすることを大切にしていたため、現地に行きました。

ともいきのこころ

長谷川良信先生の足跡（そくせき）・2

～写真から広がる長谷川良信先生の世界～

長谷川良信先生

写真スポット

マハヤナ学園の保育所玄関前

写真は、マハヤナ学園の保育所、玄関前で撮影された良信先生が65歳ころの写真です。マハヤナ学園は、良信先生の社会事業の原点でした。

1 良信先生の社会事業

それまでの慈善や救済では、両者の関係が、はっきりと二分されていました。救う者と救われる者、慈善行為を行う者と救済を受ける者というようにです。

良信先生の社会事業の基調になっていたのは「共済」であり、その根拠は大乗仏教の「衆生報恩」の思想にありました。つまり、社会事業とは、社会によって生かされているという自覚（＝感恩）が 、報恩の行（＝奉仕）となって実を結んだものであり、救済する者もされる者も、あくまで対等かつ平等ということです。

「感恩奉仕」は、良信先生終生の座右の銘でした。

2 貧児教育

当時は貧しい家庭の児童には、それに相応な教育でよいと考えられていました。良信先生はこの考えを否定し、「貧児教育優先権」というものが与えられなければならないと提言しました。

写真の保育所についても、保育所をもっとも必要としているのは、生活の苦しい人々であるから、優先的に設置するべきと保育所問題の解決策を主張します。

貧困家庭は様々な問題を同時に抱えていることが多く、どれかひとつだけを解決するのでは状況は好転しません。

3 貧困家庭への対応

そこで、マハヤナ学園では、親の職のことは職業訓練部や職業紹介部で、家族が病気になれば保健部や治療部、子どもの学校の問題は教育部でそれぞれ対応するというやり方をしました。

各部門が問題ごとに単独に動いても効果が上がらないことが多く、全体で連携をはかって、問題を解決していくというものでした。

建築中のマハヤナ学園

4 オルガナイズド・チャリティ

オルガナイズド・チャリティとは、施設の規模に関係なく、様々な種別や分野の事業を組み込むことで、地域のニーズに対応しようとする考え方です。巣鴨の長屋での住民たちの生活を踏まえ、良信先生は、たとえ小さな施設であっても、総合慈善の制度を確立することが実践の方向と考えていました。

マハヤナ学園の事業方針のひとつ「総合的救貧計画」は、こうしたことに対応したものでした。良信先生の考えが実践されたという意味でも、マハヤナ学園は先生の社会事業の原点でした。

2019年、マハヤナ学園は100周年を迎えました。

参考文献　長谷川匡俊『社会派仏教者・長谷川良信の挑戦ー宗教・社会福祉・教育の三位一体による人間開発・社会開発ー』発行：マハヤナ学園（2010年）

千葉キャンパス1号館（淑水記念館）

～ 2019年度淑徳大学アーカイブズ特別展開催のお知らせ～

「祈りのすがた―交流する生者と死者―」

【会　　期】2019年10月18日（金）～ 11月30日（土）
（土・日・祝日閉室）※10月26日（土）・27日（日）は開室。
【開室時間】AM 10：00 ～ PM 4：00
【会　　場】千葉キャンパス１号館3階　アーカイブズ特別展示室
※他の展示室も上記時間帯に随時見学できます。どうぞご来場ください。

（淑徳大学アーカイブズ）

パネルシアター講座

教育福祉学科幼保課程の正課外講座「パネルシアター講座(講師：教育学部 藤田佳子先生)」が6月より2ヵ月間に渡り実施されました。その学びの成果として、地域の保育園を訪問し自分たちで作成したパネルシアターの公演を経験しました。

公演を通し学生たちは、子どもと交流できるパネルシアターの魅力や子どもとかかわることの楽しさを身体で感じることができたようです。

公演後には、「手遊び教えて！」「また来てね！」などの声を子どもたちからかけてもらい、充実した時間と学びを経験することができました。

パネルシアターの様子：子どもたちの笑顔や真剣なまなざしは学生にとって大きな自信となりました

ひまわり保育支援ボランティア

千葉第二 CAMPUS

ボランティア活動を温かく優しくご指導くださったひまわり幼稚園の先生方と記念撮影！！夏の素敵な思い出になりました

今年度、看護栄養学部ボランティア講座では、松ケ丘地区のひまわり幼稚園から初めて夏期休暇期間中の保育支援ボランティアの要請をいただきました。8月7日(水) から8日間延べ18名の看護栄養学部の学生がボランティアに参加しました。猛暑にも元気いっぱいの子どもたちに迎えられ、お姉さん先生として全力で子どもたちと向き合い、遊び、1日をともに過ごしました。また、優しい先生たちに指導を受け、子どもとの関わり方や教室運営のみならず、子どもの発育発達過程の実際にも触れ、楽しく、学び多い活動となりました。園長先生からも、学生の子どもたちへの接し方が上手だったとお褒めの言葉をいただきました。

健康フェスタ

8月21日(水)、看護栄養学部による「健康フェスタin生涯大学校」が開催され、89名の方が参加されました。包括協定を結んでいる千葉県生涯大学校のオープンキャンパス会場にお邪魔しての開催でしたが、健康フェスタを目的に来場された方も多くいらっしゃいました。プログラムはまず、握力、開眼片足立ち、椅子立ち上がり、歩行能力の測定。次に、身長・体重、BMIと体脂肪率測定、骨密度測定、肌の健康チェック、食力チェック、血圧測定と盛り沢山でしたが、参加者ほとんどの方がすべてのチェックを受け、最後の結果説明まで熱心に耳を傾けておられ、健康へのこだわりが感じとれました。ボランティアの学生の皆さんも大忙しでしたが、皆、機敏に動いてくださり大活躍でした。

椅子の立ち上がりについて、教員が参加者に説明をしている様子

第11回 淑徳大学スペシャルナイター

千葉 CAMPUS
千葉第二 CAMPUS

千葉ロッテマリーンズの冠協賛試合、「淑徳大学スペシャルナイター」が8月7日(水)に開催されました。コミュニティ政策学部サービスラーニングセンターのプログラムの一環として企画・運営される当イベントは11回目を迎え、本年度は「プロスポーツとの提携を通じたサービスラーニング活動の質的向上」および「来場者に対する本学教育研究活動の理解向上」を目的として開催されました。プログラムに参加したコミュニティ政策学部学生47名、看護栄養学部学生17名、車いすバスケットボール学生実行委員13名の合計77名の学生がスタジアムの内外でさまざまな取り組みを行いました。

4月に参加募集を行ってから当日まで、学生たちは忙しい授業の合間を縫って毎週のように集まり、予算や安全性、球団との調整などを経ながら実現可能性を精査しつつ企画内容を深く検討していきました。当日は天候に恵まれ、多くの来場者の方々にイベントに参加いただきました。学生たちは予想以上の混雑にも臨機応変に対処し、多くの方に喜んでもらえるよう創意工夫を凝らしてイベントに臨むことができました。

事前の準備段階から当日の運営までを通して、学生たちには自主性や協調性、課題解決能力の向上を学んできました。本イベントで得た能力は今後の教育研究活動や卒業後の社会生活において発揮されることが大いに期待されます。

プログラムに参加した学生スタッフのみんなと

看護学科の学生による血圧測定

子どもたちに大人気「ストラックアウト」

第44回 発達臨床研修セミナー

千葉 CAMPUS

▲教材展示の様子
◀セミナーの様子

参加者は、24都府県より、北は青森、南は沖縄からいらっしゃいました

淑徳大学発達臨床研究センターでは、年間4回の専門研修を開催しています。そのうちのひとつ、第44回 発達臨床研修セミナーが8月3日(土)、4日(日) の2日間にわたり、千葉キャンパスで開催されました。テーマは「子どもの発達理解と支援ー育てるかかわり・支える環境」。特別支援学校や保育・療育関係者が324名、本学学生55名の参加がありました。会場運営や展示教材の解説には、学部や大学院の臨床実習学生が携わるなど、所員と学生が一体となってセミナーを開催することができました。

客員教授の先生が授業

東京 CAMPUS

表現学科ならではの特別講義。大いに盛り上がりました

表現学科には、各業界を牽引している特命教授が2名・客員教授が9名います。

夏休み前には、プロデューサーの石井ふく子先生、パフォーマーのEXILE TETSUYA先生、作家の岸本葉子先生、声優の矢島晶子先生などの授業が行われました。

現在進行形で各現場でお仕事をしている先生のお話は、とても刺激的で、魅力あるものです。学生たちは、いつも以上に目を輝かせ、先生のお話に聞き入っていました。

中でも矢島晶子先生は、本学短期大学部の卒業生ということもあり、学生時代の先生は、学食のカレーうどんが好きだったという話から一気に先生と学生の距離が縮まったようです。矢島先生の温かいジョークのたびに笑いが起こり、多くの学びの中に楽しさもある時間になりました。

また、先生の中に「共生」の精神が見えるお話を聞き、学生たちは驚いたと同時に、とても嬉しかったと話していました。

オープンキャンパス企画「歴女のためのカフェタイム」開催

熱い「歴女」トークが展開されました

8月25日（日）に開催された人文学部のオープンキャンパス。このなかの企画のひとつとして、歴史学科を志望する受験生を対象とした「歴女のためのカフェタイム」を開催しました。近年では「歴女（れきじょ）」の存在が社会的にも注目されており、本学でも多くの女子学生が学んでいます。

当日は在学生のほかに、女性教員として遠藤ゆり子准教授と吉森丹衣子助教に加え、都内の博物館で学芸員として勤務する1期生と、同様に千葉県の中学校で教鞭をとる2期生が卒業生として参加。学生生活の様子や就職先での勤務状況などについてトークセッションを行い、多くの受験生が耳を傾けていました。

「みずほ台まつり」に参加しました

埼玉 CAMPUS

8月31日(土)、みずほ台駅西口で開催されたみずほ台祭りに参加しました。前日の予報では雨でしたが、幸運なことに当日雨は降らず、絶好のまつり日和でした。

さて、本年度、みずほ台まつりにおいて3つの取り組みが行われました。

1つ目は経営学部の企業経営研究Ⅱ・Ⅲ内の商店会活性化コースです。昨年度に引き続き2度目の出店をいたしました。今年はかき氷とタピオカドリンクの販売を行っており、大学生らしい個性のあるPOPには、学生の創意工夫が多くみられました。授業の一環として行っておりますが、学生たちも「自分たちで出店することで商店会を身近に感じ、より『商店会を活性化させたい』という気持ちが生まれた」と話しており、後期に向けてのモチベーションも上がっているようです。

2つ目は、同じく経営学部のボランティア研修です。今年度が初の取り組みで、ボランティア研修先としてみずほ台祭りに参加しております。先述の出店が、祭りの「表」の部分だとすると、こちらは「裏側から」祭りを支える取り組みです。ボランティアに関して事前に講習を受けた後、実行委員会の会議にも参加し、そして当日は花掛けや清掃の手伝いとして参加しました。にぎやかな祭りの裏で、どれだけ多くの人が運営に携わっていて、どれだけの苦労があるのかを知る良い経験となりました。

3つ目は教育学部のFriendshipチームです。教育学部の有志の学生が集まり、小さな子ども向けの遊べるコーナーを実施しました。もぐら叩きコーナー、リボン作りコーナー、パッチンおもちゃのコーナーの3つを設置し、遊びにくる子どもたちに楽しんでもらうさまざまな工夫がなされていました。学生に話を聞くと、「もともと子どもが好きなのでもっと触れ合える機会が欲しいと思っていた」と非常にやりがいを感じている様子でした。

2019年度前期 淑徳子育て支援プログラム

教育学部では、地域の子育て支援施設や児童館の子どもと保護者、また保育園の子どもに、乳幼児が楽しめる公演を提供しています。内容は、パネルシアターやヘビダンス、さまざまな遊びなどです。この「淑徳子育て支援プログラム」は、こども教育学科と教員・保育士養成支援センターの教員による運営・指導のもと、幼児教育コースの2年生の参加を得て実施しており、学生が保育技術や子ども・保護者について実践の中で学ぶ機会としています。

2019年度前期には、4回の出張公演と2回の大学内公演、4回の練習会を行いました。

7月9日(火)に行われた認定証授与式で、淑徳子育て支援プログラムに参加した32人の学生に、加藤尚裕学部長から、「淑徳子育て支援プログラム認定証」が授与されました。

尚、この他にも、教員・保育士養成支援センターでは、「淑徳わくわく遊び隊」の運営やボランティア活動の支援など、幼児教育コースの学生が現場で学ぶ機会を提供する各種の取り組みを行っています。

Together 228
The Shukutoku University Newsletter
発行日：令和元年10月1日　編集：大学広報編集委員会　発行：大学事務局　制作協力：株式会社図書出版

台風15号により被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます

この度台風15号により、被害を受けられた学生の皆様、関係者の方々に心からお見舞い申し上げます。
被害に遭われた皆様、復旧にあたられている皆様におかれましては、健康に十分ご留意のうえ、今後の作業等にあたっていただければと願っております。
本学も地域の大学として復旧に微力を尽くしたいと考えております。
未だ心配な状況が続いておりますが、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

知識モリモリ × 福祉の仕事

ソーシャルワーカーを活用しよう

第24回 実践するために求められるもの

総合福祉学部　社会福祉学科
佐藤 俊一 教授

前回は、養成課程において何を学ぶかを示しました。今回は実践するために求められる核となることを紹介してみましょう。

ソーシャルワーカーがどんな場で実践しても、相手(クライエント)の生活課題を一緒に考えていきますが、生活課題は本当に多種、多様です。私たちが、これまで体験したことのない生活の仕方や家族に出会います。そのため、どんなに経験を積んでも戸惑いや驚きはなくなりませんが、それは大切な感覚です。同時に、感情に振り回されず冷静に相手の生活の全体を見る視点を持つことが必要です。

ソーシャルワーカーは、法や制度等に関する知識を活用して課題解決に取り組みます。ここで注意して欲しいことは、ソーシャルワーカーは課題だけでなく、課題を抱えた**人にかかわる**ということです。そのため、相手はモノでないので、ソーシャルワーカーの態度が不適切ですと、クライエントから拒絶されることがあります。人にかかわる力が問われ、また求められます。実践のなかだけでなく、日常生活の人間関係で人にかかわる力が鍛えられるということを知ってもらい、体感してもらえるといいですね。

掲示板

学園祭＆ホームカミングデーのお知らせ

千　葉 Campus

第53回 龍澤祭

挑戦～新時代と共に～

開催日 **10月26日(土)・27日(日)**

26日は、特撮Boyzライブ開催！
27日は、お笑いライブ開催！

ホームカミングデー
10月26日（土）12：30～オープニングセレモニー（受付12：00～）
12：45～【講演会】「津久井やまゆり園事件が問いかけるもの」
講師 鈴木 敏彦先生（和泉短期大学教授、神奈川県障害者自立支援協議会会長）
13：45～【特別企画】「寮生放談」青雲荘vs大巌寺会館
【公開講座】「大学院で学ぶ」
15：00～【懇親会】

東　京 Campus

第56回 淑徳祭 ～つきかげ祭～

意気衝天～盛り上がれ令和最初の淑徳祭～

開催日 **11月23日(土)・24日(日)**

ホームカミングデー
11月23日（土）
14：00～【講演会・懇親会】（受付13：30～）（予定）
※詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

埼　玉 Campus

第24回 淑徳祭

一新嬉源 ～千二百本の華咲き誇れ～

開催日 **10月19日(土)・20日(日)**

ホームカミングデー
10月20日（日）
15：00～16：30　懇親会（受付14：30～）
[同日企画]
14：00～15：00　教育学部イベント
※詳細は決定次第、HP（右記QR）でお知らせいたします。

編集後記

楽しかった夏休みも終わり、後期の授業が始まりました。「天高く馬肥える」といわれる秋の到来です。過ごしやすい気候となり、また収穫の時期でもあるため、スポーツの秋、食欲の秋など様々なアクティビティを伴った「○○の秋」とも表現されます。そんな秋を皆さんはどのように過ごされていますか？

秋の夜長を活用して、葉ずれさやけき虫の音や瀬音ゆかしき月夜の風情を味わいながら「読書の秋」を満喫してみてはいかがでしょうか。大学の図書館には様々な専門書が収蔵されているだけでなく、学生選書など幅広い一般書籍や書店では見かけない新書・古典小説なども収蔵されています。特に新書は様々な分野の専門家が種々の事象を分かりやすく解説しており、社会問題やその背景等を知る入り口としてうってつけです。

ぜひ大学図書館へ足を運んで、読書の秋を通して自身の教養を深めてみませんか？（村上）

「淑徳大学広報誌」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしております！
reply@soc.shukutoku.ac.jp（右記 QR コードから読み取りできます▶）

千葉キャンパス
総合福祉学部　コミュニティ政策学部　大学院 総合福祉研究科
〒260-8701 千葉県千葉市中央区大巌寺町200 TEL：043-265-7331

埼玉キャンパス
経営学部　教育学部
〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1 TEL：049-274-1511

千葉第二キャンパス
看護栄養学部　大学院 看護学研究科
〒260-8703 千葉県千葉市中央区仁戸名町673 TEL：043-305-1881

東京キャンパス
人文学部　淑徳大学短期大学部
〒174-0063 東京都板橋区前野町6-36-4 TEL：03-3966-7631